



1896(明治29)年に登場したデルビル磁石式壁掛電話機。(中村洗石「女子電話使用之図」)

料石油商 麻利 綾部利右衛門、三一番 運送業 停車場前 牛窪久四郎、三四番 蒲焼 小川菊小川菊太郎、五六番 料理店 初音楼 篠澤政五郎、四二番 穀商 足立屋 原田要吉、四五番 菓子舗 亀屋 山崎嘉七、五一番 仙波河岸 水運回漕店、五二番 酒類醬油 熊重 瀧島重蔵、五九番 自転車馬具 榎屋 榎井半造、六六番 株式会社川越商業銀行・川越貯蓄銀行頭取 竹谷兼吉、七〇番 川越電気鉄道会社、七二番 蕎麦 伊勢清 鈴木清吉、七三番 産婦人科 山村源次郎、八〇番 株式会社第八十五銀行、一〇一番 糸爾乾燥糸業 武陽館 西澤慎吉、一五・一六番 菓種染料商 野々山喜右衛門、一一八番 材木商 丹波屋 梶清左右衛門、などであった。

ここまでは調査されているのだが、以後の電話増設の経過はよく判っていない。一九一〇年二月三日付「埼玉新報」の広告に、「三嶋信之助編纂『埼玉県下電話番号帳全一冊』、須原屋書店、三月十日

発行、一部二十銭、特価十五銭」とある。大宮町の特設電話開設が川越・熊谷の八ヶ月後、浦和町が二年後であったから、この電話番号帳の発売は時宜を得たものであつたらう。これが見つかれば、開設後の増設状況がつかめよう。県立図書館、市立図書館には、戦前の電話帳の保管はない。ちなみに、同月九日、川越中学校友会では、新渡戸稲造の講演会を開催している。

「川越商工会議所75年誌」には、一九〇八年一月末から特設電話交換業務が開始されたとあり、『埼玉新報』の広告も「川越営業案内」に電話番号が載りだすが、開設一年後位からである。○九年一月一日付「埼玉新報」で、前年末に「弊社川越支社電話開通、主任野原文次郎、二四番」とあり、以後翌年の正月の年賀広告から多くの番号が登場する。九・七(大正六)年頃までのいくつかの地域紙の広告を追うと、一九一〇(明治四五)年一月段階で三四四番 鳥清、三九一四(抄史)には、一九一四年の加人者が三三六名とあり、(大正元)年の陸軍大演習が電話事情を好転させたともある。開設一年後に二〇番台、二年後に二二〇番台が

増設されたと推定できる。川越工業学校の二〇六番と川越中学の二四番はこの時期に設置されたと考えられよう。陸軍大演習時に川中が大正天皇行在所となったことも大いに関係がある。当時の二〇〇番台前半では、二〇六、二一四、二一六、二二二、二三四、二二九番が不明である。

判明したものは、二〇一 新開雑誌 山上新開店、二〇二 米穀問屋 原田勝蔵、二〇三 米穀問屋 実浄一秀、二〇四 米穀問屋 斎藤民造、二〇五 肥料石炭商 山田屋商店、二〇七 染谷平六、二〇八 萬染色 大阪屋 栗原勝次郎、二一〇 機道具、製糸具木(水) 村常造、二二二 内国通運株式会社取引店 田中運送店、二二一 大宮運送店 合資会社川越出張所、二一五 鶴川座 内川内蔵寿、二一七 織物商 今井興助、二一八 紙類石炭 常山堂 深善商店、二一九 織物商 原田利助、二二〇 印刷所進愛社、二二一 松下定雄、二二三 カセラ染料川越試験場 佐久間御部、二二五 肥料商 矢部仲右衛門、二二六 書籍雑誌 謙受堂書店、二二七 森田屋旅館、二二八 織物商 加藤元三郎、二二九 米穀外米 榎屋猪之助、二三一 那珂写真館、などである。

ところで、電信・電話の歴史はまさに近代化の歴史そのものであった。ペリーが浦賀に再来航したとき、モールス電信機を持参し実験して見せたことは有名である。東京帝国大学医学部のお雇い教師ベルツの日記にも、西南戦争の翌年の一八七八(明治一)年三月二十五日に、上科大学(東京帝国大学)の大講堂で電信開通の大宴会が行なわれたことが記されている。この日は日本政府の国際電信連盟加入の祝賀であった。なお、県立川越中学設置の十年以上前の一八八八(明治二)年十月には、通信大臣榎本武揚名で埼玉県に対して、川越電信局設置が許可されている(「川越地域の電話抄史」)。

その二年後の一八九〇年に東京・横浜電話が開設された。グラハム・ベルによる電話は発明の翌年の一八七七年には輸入されていたが、警察通信が中心で、官営の公衆通話の開始には十数年を要した。開業時の加入者は東京・横浜で計一九七名であった(海野福寿「通信の整備」朝日百科日本の歴史10)。三番 司法省、五番 文部省、六番 帝国博物館、四五番 矢野文雄、一四一番 内務省、一五八番 洪沢栄一、一五九番 大倉喜八郎、一六六番 石川島造船所、一七七番 大隈重信、二二二番 占河市兵衛、などの名が見える。こうして出発した電話だが、川越中学に電話が設置されたと推定される時期までの二〇年間、全国の電話加入件数は、八方を超えていた。

特設電話は自費で電話回線を架設し、電話機を設置する方法で、申請手続き・加入者募集、架設費・料金徴収は商業会議所が代行し、

川越織物市場 株式會社

賀正 前原仙次郎 賀正 杉目宗助 賀正 秋山秀夫 賀正 菅野政五郎 賀正 青木正興 賀正 加藤萬次郎 賀正 米賢造 賀正 久田仁平

賀正 川越織物市場 株式會社

「埼玉新報」広告1911(明治44)年1月1日。川越中学校前原仙次郎の名も見える